

ISOを知る、伝える、広げる、会報誌

ISONET

center for better living

Vol.97



特殊形状のねじを作る型に使われる「転造平ダイス」(製作:大新工業製作所)

ISOで進化する組織

株式会社 大新工業製作所

ISO9001に基づく
生産フローの改善で、
納期を大幅に短縮

BL審査員インタビュー 第11回

内部監査を改善の
チャンスと捉える

品質MS/環境MS主任審査員 荒木 利貞 氏

BL-QE Information

ISO/IEC27001:2013

国際規格 (IS) として

2013年10月1日に発行!

◎規格改正説明会

東京10月23日(水) / 大阪10月28日(月)

Seminar Report

2013年度 BL-QE情報交換会 ● 東京

メイン講演

「経営における安全・安心について」

講師: 向殿 政男 名誉教授

北から南から

新規登録組織

2013年6月度～8月度

登録組織からのお喜びと抱負の言葉を紹介

Seminar Information

・ISO9001品質マネジメントシステム
内部監査員養成研修会

認証取得の広報に

BL登録ステッカーをご活用ください。

一般財団法人

ノーリピング システム審査登録センター(BL-QE)

ISO9001に基づく生産フローの改善で、納期を大幅に短縮

株式会社 大新工業製作所

神奈川県藤沢市を拠点に、ねじ用金型の設計・製造・販売を行う株式会社大新工業製作所。特殊形状のねじを作る型に使われる「転造平ダイス」の製作では国内屈指のメーカーだ。2009年には、海外企業との取引を見据えて、ISO9001の認証を取得。生産工程別にマニュアルを作成し、作業の改善ポイントを把握することで、それまで40日間かけていた納期を30日間まで短縮することにも成功した。今回はISO9001の運用や取り組みについて、代表取締役の島田信宏氏、ISOマネジメントシステム管理責任者で常務取締役の島田兼裕氏にお話を伺った。

研削、切削、塑性加工の 技術を駆使して 高品質のねじ用金型を製作

大新工業製作所は、ねじ用の「金型」を設計・製作している。金型と聞くと圧力をかけて薄板を変形させるためのプレス用の型を連想するが、同社で作るのは金属素材にねじの形を転写する転造用の特殊な金型(ダイス)だ。特に、特殊形状のねじを作るための転造用の金型を、1つからでも製作することを事業の旨としている。

大新工業製作所が得意とする金型は、板状のダイスの一方を固定し、もう一方を平行に移動させてねじの素材を転造する「転造平ダイス」に使われるダイスだ。「転造用のダイスには、平形、丸形、セグメント形の3つがあり、それぞれねじの素材、形状、生産性などに違いがあります。中でも平ダイスは、ねじの生産性が高い、特殊な形状に対応できる等を理由に市場のニーズが高く、金型メーカーの多くが平ダイスを供給しています。当社では平形の転造平ダイスしか生産していません。ただし他メーカーとの違いは、研削、切削、塑性加工の各技術を保有し、精密な転造平ダイスを製作する点でしょう」と話す島田社長。祖父の代からの3代目社長だ。

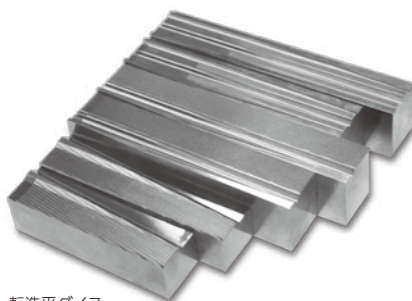
さらに島田氏は同社の優位性について話を続ける。「塑性加工



代表取締役
島田 信宏 氏



本社工場



転造平ダイス

のねじ型のマスターロールがあれば、精密な金型をいくらでも作ることができます。当社のマスターロールは摩耗率を無視できるレベルにあるので、金型すべてをほぼ均一な形状で製作できます。研削では摩擦によって砥石の形状が少しずつ変わってしまうので、それは難しい。マスターロールは保管しておくので、お客様から同じ金型が欲しいと数年後にいわれても即対応できます。これがお客様と長いお付き合いができる理由です。一方、当社が得意とする特殊な先端形状のねじの金型は、研削と切削でなければ製作できません。研削、切削、塑性加工のすべての技術を保有する当社だからこそ、さまざまな金型製作に対応できるのです」

ISO導入を決断。 コンサルタントへの依頼で成功

2009年11月、大新工業製作所はISO9001の認証を取得した。海外での取引が拡大してきたことがきっかけだ。

「日本の製造業各社の間では、当社の名前は浸透していますが、当社を知らない外国企業が日本を見たときに『ライセンスのあるなし、が競争力の差になると判断し、ISOの認証取得を決断しました。現在、インドネシア、タイ、ベトナム、中国、台湾などへ進出した日本企業と取引しています」とISO認証取得の理由を説明する。

「認証取得に向けては、大学のISOセミナーへの参加や、コンサルタントに依頼し勉強会を開くなど、準備を進めました」

審査に臨むにあたっては、質問の内容が想像できず、社員一同不安だったという。ただし審査を担当したのが、ベターリビングの金属分野の専門的な知識のある審査員だったこともあり、金属を扱うもの同士、専門用語などを交えた話は

スムーズに進んで審査は滞りなく終了した。

ISOマネジメントシステムの管理責任者である島田常務が、認証取得や更新についてのエピソードを話してくれた。

「認証取得の前から、受注・設計・製造・出荷・アフターフォローなどといった社内管理はできていました。そのため、**島田 兼裕 氏**



常務取締役
ISOMS管理責任者
島田 兼裕 氏

ISO9001の要求事項に出てくる用語を盛り込む以外、品質マネジメントマニュアル(QMM)の作成は比較的容易でした。更新審査でも、当方が気づかないことなどベターリビングの審査員の方が指摘してくれるので、素直に受け入れています。ただし納得のいかない内容についてはとことん話し合い、当社のスタイルを理解してもらえるよう心がけています」

納期短縮とコスト削減— ISO導入による成果

大新工業製作所では、ISOの認証取得後にフローチャート式の工程別の品質マネジメントマニュアル(QMM)を作った。マニュアル化により作業の見える化が進み、生産工程の短縮可能な個所の発見につながった。40日間の製作期間は、無理なく30日間の納期に移行することができたという。これは同社だけでなく、お客様の利益にも通じる。

「最近の日本のねじ業界は、試作品を国内で作り、生産を海外で行うことが多く、国内での納期は非常に短い。転造平ダイスの製作技術は他社にほとんどなかったため、私どもの納期(40日間)で作ってきました。しかし、それが時代の流れで難しくなってきたことや海外との取引を考えると、納期の短縮は必須課題でした。ISO9001に基づいた生産工程のマニュアル化が、納期短縮に大きく役立ったと思います」と島田社長はISO導入のメリットを話してくれた。

さらにコスト削減の課題では、不良率を0.1%まで減らすことで金型を廃棄する量を抑え、成果を上げている。

「生産管理体制を確立し、不良が起きにくい環境を整えていますが、どうしても指示書の読み間違いや、NC化された工作機械への数値入力の間違いなど人為的ミスは起こってしまいます。そこで当社では、数値入力の間違いをなくするため、サーバーからパソコンへ下りてきたデータを目視で確認し、そのままNC工作機械へ転送すれば加工が始まるというシステムにしています。ユーザーはNCのプログラムを組むことや修正の必要がないので、入力ミスは起こりません」と、島田社長。さらにISO9001導入のメリットを次のように続けた。

「不良が出たときの報告義務により、社員に緊張感が生まれてきました。報告書は直属の上司、工場長、役員全員が目



世界最小(直径0.3mm)の転造ねじ
(大新工業製作所の転造平ダイスで転造)

を通し、チェック時にコメントを加えていくため、不良を出した人にそれを返すことで改善法などを認知できます。以降の不良率低減と、社員の意識改革の面で非常に大きな効果がありました」

100年企業を目指して

最後に、今後の目標などについて島田社長に聞いた。

「日本の産業は、金型産業が成長することで成長してきた節があります。いままでのヒット商品には、ねじの金型が付随していました。少し前の話になりますが、カセットテープの中にはねじが5本使われており、さらにテープを巻く2本の軸は転造で作られていました。余談ですが、この軸の部分は当社が開発したものです。カセットテープやビデオテープが使われていたころは、とにかくねじが売れました。いまの目標は、会社を100年保たせることです。100年経てばまた次の100年も見えてくるはずですが、そろそろ当社も創業60年を迎えますが、これからの時代をどう乗り切るか、いくつかの課題はありますが、それらをクリアできれば、ひとつの区切りが見えてくると思います」と、その抱負を語った。

■組織概要

創 業:1956年(昭和31年)9月
代表者:代表取締役 島田信宏
本 社:〒251-0041 神奈川県藤沢市辻堂
神台2-2-29
資本金:3,600万円
従業員:27名
事業内容:ねじ転造用平ダイスの設計・製造・販売

■品質方針

当社は、国内では数少ない転造平ダイスを製造する専門企業である。製品の製造は、材料の購入から製品の梱包・出荷まで基本的に全て自社工場に行い、高水準な品質を維持するため、品質マネジメントシステムを継続的に改善することとする。

- 1.顧客への営業活動をおこない、自社製品の市場占有率の拡大に努める。
- 2.製造指示書(カード)に記載された内容通りに製作されるのはもちろんのこと、製品の仕上がりには細心の注意を払う。
- 3.リピート品の受注に対して、常に同じ製品を高い精度で顧客に提供する。
- 4.複数セット口の注文に対して、高度に均一な製品を顧客に提供する。
- 5.顧客からの納期短縮の要望に対して最大限努力する。
- 6.開発の手を緩めず、自社の製品が業界のスタンダードになるよう努める。

株式会社大新工業製作所 代表取締役 島田信宏

■運用システム

ISO9001:2008

■経営理念

より顧客から期待され信頼される
企業づくりをする

[第11回]

内部監査を改善のチャンスと捉える

組織がISOマネジメントシステムを理解し、業務に活用するためのノウハウを審査員に聞く「BL審査員インタビュー」。第11回目は、荒木利貞主任審査員(品質マネジメントシステム/環境マネジメントシステム)から、「有効な内部監査」について伺った。



業務プロセスの図式による見える化で、問題点のあぶり出しがスムーズに

——内部監査の本当の目的がわかりにくくなっている気がします。どのようにお考えですか？

私たち審査員は、第3者として外部から組織を見ます。一方、内部監査は内部から自分たちの組織の強み弱みを把握し、改善ポイントがあれば改善していく、というプロセスです。外部の目の対極にあるもので、ISOマネジメントシステムに組み込まれている非常に重要なプロセスです。ところが、最近この内部監査が形骸化していると感じることが多くなりました。審査の場で「マネジメントレビュー」記録を拝見すると、毎回指摘事項「0」、というのが多いのです。ISOマネジメントシステムでは「改善点がない」ということは期待していません。継続的改善というのが、ISOマネジメントシステムの本来の目的で、改善点が見つけられていないのでは？と危惧してしまいます。

そもそも、ISOマネジメントシステムというのは、組織のトップである社長のシステムであると考えてもらったほうが理解しやすいと思います。社長は、ISOの品質や環境だけではなく、経理、人事、顧客など、さまざまなシステムを統合しながら、経営に当たります。つまり、内部監査も社長の代わりに行うという意識が必要です。

——具体的にどのように行うべきですか？

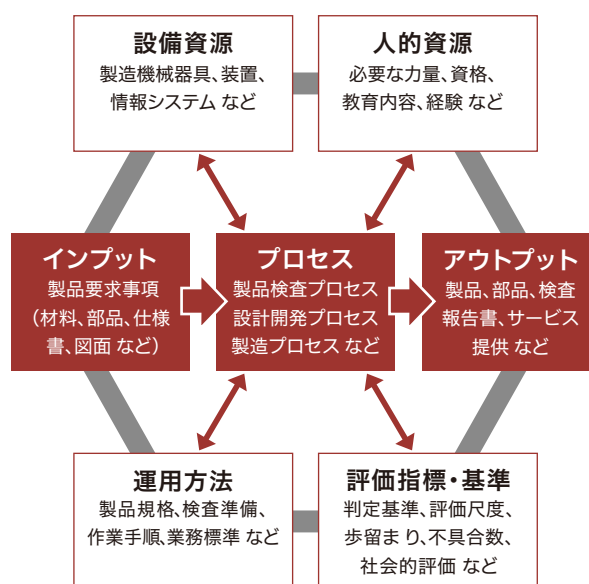
内部監査を有効に行うために、提案が1つあります。「タートル図」(図が亀の甲羅のようになる)といいます。組織のさまざまな業務プロセスを内容別に図式化したものを活用する方法です。右記のタートル図をご覧ください。中央に対象となる業務プロセスがあり、「インプット」を「アウトプット」(成果)に変換するために必要な「設備資源」「人的資源」「運用方法」「評価指標」が周囲にあります。それぞれ何なのかを明確にしながら記述していきます。つまり図を用いて業務を見える化していく、ということです。内部監査では、このプロセスの流れに沿ってチェックしていけば、上手く流れていない原因があぶり出しやすくなります。

「タイムリー」こそ、改善の成果をあげるポイント。 内部監査後の是正措置はいち早く着手

——内部監査が、チェックだけで終わってしまう組織も多いと思いますが…

非常に残念ですが、少なくないですね。私が内部監査について申し上げたかったもう1つの提案が、内部監査後のタイムリーな是正措置です。是正することで成果があらわれるのに、せっかく不適合事項を発見しても、是正に時間をかけすぎたり、また延ばし延ばしにしたりなど、内部監査を行った意味がなくなってしまいます。きちんと最後までフォローする有効な内部監査にしてこそ、成果があがっていくのだと思います。

タートル図(プロセス分析図)



荒木利貞氏 プロフィール

(株)竹中工務店に37年在職し、設計部、技術研究所、総本店人事、広報部、知財室等を歴任。(有)ISOアソシエイツ設立後、コンサルティング等に従事。品質・環境マネジメントシステム主任審査員、GHG排出削減量主任検証人、一級建築士。

メイン講演「経営における安全・安心について」

「2013年度 BL-QE情報交換会 東京」(6月21日開催)では、明治大学の向殿政男 名誉教授を迎えて経営における安全・安心についての講演を行いました。その内容から「製品安全」「労働安全」を中心にダイジェストでお届けします。全文はベターリビング ホームページ「登録者専用ページ」に掲載いたします。

講師：向殿 政男 名誉教授 プロフィール

明治大学大学院工学研究科電気工学専攻博士課程 修了。現在、明治大学 名誉教授、明治大学 校友会 会長。安全学を専門に研究。また経済産業省 製品安全部会長、国土交通省昇降機等事故調査部会長も務める。2005年に経済産業大臣表彰受賞、2006年には厚生労働大臣表彰受賞するなど日本の安全学のエキスパートとして活躍。



「絶対安全はありえない」

製品価格が少し高くても安全・安心なものを買う、という人が増えている。製品やサービスが安全なのは当然のことで、いまの社会は安全に対する企業の姿勢や倫理観へも目を向けている。

安全について最初に知っておくことは、「絶対安全は存在しない」ということだ。リスクは必ずあると考えるべきである。リスクは、製品を作る側だけでなく、ユーザー側の責任によるケースがあることをユーザー自身も意識しなければならない。リスクを回避するため、役割分担をはっきりさせることも重要だ。

現在、「製品安全」から「トータルな安全づくり」への動きが出てきている。安全なものを作るのは当然で、安全に働くということも含め、企業活動全体の安全を作る、という考え方だ。信頼される企業を目指すなら、従業員の安全、企業の安全、そして消費者の安全を考えること。これら全てをマネジメントしない限り安全はない、と考えるべきである。

「3段階の安全設計でリスクを低減する」

製品安全で重要なのは、事故を予測し未然に防ぐ製品を作ることだ。そのために、危険箇所を明確にし、事故発生 の頻度と状態を把握し両者を勘案してリスクの大きさを決定し、リスクが許容可能か否かを判断する。もし許容可能でなかったときは、以下の「安全設計の3ステップ」でリスク低減策を図ればよい。

- ①危険源がないように製品設計する(本質的安全設計)。
- ②安全装置を付けるなど安全防護対策をとる。
- ③危険源やリスクを示し、使用上の手順などを情報提供する。

この3ステップはメーカーの役割となる。

また、企業の心得として、顧客からの苦情は宝の山と考えることだ。クレームは大切な顧客の声であり、対応の善し悪しが企業イメージを決める。

「日本は労働災害死亡事故が多い国」

労働災害による10万人あたりの年間の死亡率を欧米諸国と比較すると、イギリス0.9人、アメリカ3.2人、日本は4.1人だった(国際安全衛生センター発表/1990年代データ/年度は必ずしも同じではない)。日本の労働災害による死亡事故は少なくはないのだ。2005年のデータでも、イギリス0.58人、日本2.3人と、その差はあまり変わっていない。一方、2005年に労働災害でけがをした人(雇用者全体の中で被災した人の割合)は、イギリス1.108%、日本0.86%だった。イギリスでは被災者は多いが死亡事故につながらないのは、リスクアセスメントがきちんとできていることを示している。

こうした状況の是正に向け、厚生労働省は2006年、労働災害が多い機械災害に対して、労働安全衛生法にリスクアセスメントの導入を追加。翌2007年には、「機械の包括的な安全基準に関する指針」を改正した。現在は、ユーザー側から得た知識や経験をメーカーへフィードバックするための規則を検討中で、メーカーとユーザーが危険情報を共有し、いかにリスクを少なくしていくか、という方向に向かっている。



安全を安心へ



「安全=安心ではない！」

「安全と安心は異なる」ことを理解してほしい。安全とは、客観的・合理的・科学的にリスクを明らかにして目指すもの。安心とは、受け入れる側の価値観に依存する主観的なものだ。メーカーは安全を作ろうとしているが、消費者が求めているのは「安心」である。

製造した企業や人、組織、国などを「信頼すること」で「安心」は生まれてくる。企業として、安心につながる安全文化の醸成は必須である。安全はコストではなく「投資」であり、持続的可能経営には、理念や伝統を維持しつつ、変化に対応することが求められる。

北から 南から

新規登録
組織

■2013年6月度

●ISO 9001:1件 ●ISO 14001:1件 ●ISO/IEC 27001:1件 ●OHSAS 18001:0件

■2013年7月度

●ISO 9001:2件 ●ISO 14001:2件 ●ISO/IEC 27001:0件 ●OHSAS 18001:1件

■2013年8月度

●ISO 9001:1件 ●ISO 14001:0件 ●ISO/IEC 27001:2件 ●OHSAS 18001:0件

詳しくは、ペターリビングホームページをご覧ください。

2013年
6
月
度

ISO 9001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
Q1511	東亜建設 株式会社	福岡県福岡市	土木工事の施工

ISO 14001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
E415	東亜建設 株式会社	福岡県福岡市	土木工事の施工

ISO/IEC 27001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
IS053	日本公告調査 株式会社 (調査部/システム管理部/総務部)	鹿児島県鹿児島市	電子公告調査業務及び、業務に関連する情報システムの開発・維持管理

2013年
7
月
度

ISO 9001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
Q1512	池田鉄工 株式会社	和歌山県和歌山市	プラント建設、保守、増設、変更
Q1513	株式会社 ショーエイ	大阪府大阪市	電子機器関連部材販売・輸出入業務(フィルム事業)、LED照明太陽電池関連部材販売

ISO 14001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
E416	株式会社 ショーエイ	大阪府大阪市	電子機器関連部材販売・輸出入業務(フィルム事業)、LED照明太陽電池関連部材販売
E417	株式会社 大同機械	東京都墨田区	仮設建築部材のレンタルおよび販売、ワイヤーロープ加工・販売

OHSAS18001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
OH005	株式会社 植村組	鹿児島県鹿児島市	土木構造物の施工及び建築物の設計、施工

2013年
8
月
度

ISO 9001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
Q1514	八木建設 株式会社	埼玉県本庄市	建築物の設計、工事監理及び施工／土木構造物の設計及び施工

ISO/IEC 27001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
IS054	ジェイティエンジニアリング 株式会社 (システムインテグレーション部及び管理部)	東京都墨田区	情報処理ソフトウェアの作成、処理、開発、維持管理の請負及び販売、これらに付帯関連する業務
IS055	株式会社 トレス・バインド	大阪府大阪市	制御系システム開発、業務系システム開発、Webサイト制作

お喜びと抱負の言葉

2013年8月に、ISO/IEC 27001の認証登録をされた組織の方からのお喜びと抱負の言葉をご紹介します。

ISO54 ジェイティエンジニアリング 株式会社 継続的な情報セキュリティの維持・改善に取り組む



代表取締役社長
田口 敏夫 様

弊社は1987年に日本たばこ産業(株)の100%出資の子会社として設立され、生産設備のみならず、それを監視・制御するシステム技術、ならびに建築技術を融合させたトータル生産システムを提供するエンジニアリング会社です。

この度、ISMSの認証登録をしましたが、継続的なセキュリティの維持・改善によるお客様の信頼性やサービス品質の向上を図るとともに、より強靱な組織体制づくりやリスク管理の強化に取り組んでまいります。

ISO55 株式会社 トレス・バインド お客様の真のパートナーを目指す



代表取締役
北島 壮俊 様

関西を代表するITサービス企業となるべく、弊社はお客様の真のパートナーを目指してシステムに関わる多様な事業を行っております。お客様の業種は多岐に渡りますが、大切な情報をお預かりするシステム会社として、信頼してお付き合いいた

だくためには、お客様が安心できる会社であることが大前提です。その必要条件として、お客様の情報、知的財産の情報、個人情報などの情報の保護が不可欠であることを認識し、情報セキュリティの確保に向けて取り組んでいきます。

BL-QE Information

ISO/IEC27001:2013

国際規格 (IS) として2013年10月1日に発行!

情報セキュリティマネジメントシステムは、ISOで各マネジメントシステム規格の作成、改正時に適用を決めた共通テキスト(MSS)を基に、いち早く改正され国際規格として発行されました。これに伴いJIS Q27001も改正の予定ですが、10月5日現在、発行日はアナウンスされていません。

一般財団法人 ベターリビング システム審査登録センターでは、JIS Q27001の発行を待たず、ISO/IEC27001:FDIS(最終国際規格案)の翻訳版を基に、規格改正説明会を開催します。

●10月23日(水)東京 ●10月28日(月)大阪

今後改正されるISO9001、ISO14001の基本構造を理解する参考となる内容となっていますので、ISO/IEC27001を認証取得されている方ご参加ください。◎詳しくは、担当:長山、半田までお問い合わせください。TEL:03-5211-0603

また、ベターリビングでは、今回の改正の基となる共通テキスト(MSS)についての解説用小冊子の発行を予定しております。

ISO9001、ISO14001については、改正の内容がまだ固まっていない状況ですが、改正内容が固まったら各マネジメントシステムについての規格改正説明会を開催してまいります。

一連の規格改正については、簡易な対応が可能なように逐次情報発信してまいりますので、ベターリビングからの情報にご注目ください。

各マネジメントシステム規格の開発状況

○予備段階

○提案段階

○作成段階 【作業原案 WD】

○委員会段階 【委員会原案 CD】(2013年9月26日現在のISO14001)

(2013年9月26日現在のISO9001)

○照会段階 【照会原案/国際規格案 DIS】

○承認段階 【最終国際規格案 FDIS】

○発行段階 【国際規格 IS】(2013年9月25日発行 ISO/IEC27001:2013)

(2015年発行予定 ISO9001、ISO14001)

「委員会原案(CD)」に対して予想を超えるコメントが寄せられ、6月の会合では処理することができず、10月の会議で次の「委員会原案(CD)」に対する三ヶ月間の投票が始まる予定です。

現在、委員会段階にあり「委員会原案(CD)」に対する合意が得られ、コメントの処理が行われた後「国際規格案(DIS)」として各国に照会されます。

2013年10月1日に国際規格ISO/IEC27001:2013として発行されました。これが翻訳され、JIS Q27001が発行される日程は10月5日現在、発表されていません。

一般財団法人 ベターリビング システム審査登録センター主催

ISO9001

品質マネジメントシステム内部監査員養成研修会(2日コース)

《建築CPD情報提供制度※における14時間の継続学習制度(CPDS)実績証明書を取得できます》

研修会の内容

- 建築・設計業務に対応するISO9001内部監査員を養成する研修会です。
- 建築業のマネジメントシステムを基に、規格要求事項を解説し、設計部門や建築現場での内部監査、不適合の抽出、是正処置の方法などを解説していきます。
- 演習では、建築業における具体的な事例を基に、改善に役立つ指摘や、是正を考えられる内部監査員として組織ですぐに活躍できる技術を習得していただきます。
- 研修最後のテストで理解度を確認し、一般財団法人 ベターリビング システム審査登録センター「ISO9001内部監査員養成研修 修了証」を授与いたします。

研修会の概要

- 開催日時: 2014年 2月19日(水) 9:00~18:00
2014年 2月20日(木) 9:00~18:00
- 講師: 間瀬 雅彦 一級建築士・技術士(総合技術監理/建設部門)(JRCA品質マネジメントシステム主任審査員)
- 定員: 24名(定員になりましたら締め切らせていただきます)
- 会場: 一般財団法人 ベターリビング
東京都千代田区富士見2-7-2 ステージビルディング7階
- 受講料: ●一般 42,000円/1人(税込)
●弊センター登録組織 31,500円/1人(税込)
(テキスト代、昼食代、修了証発行料、税金を含みます)

※建築CPD情報提供制度について

建築CPD情報提供制度のCPD実績証明書は、国土交通省の官庁営繕事業に係る設計・工事監理業務の発注および建築工事等の発注に際して活用されている他、28道府県および11市において設計・工事監理業務の発注、建築工事の発注等で活用されています。

詳しくは、下記Webページをご覧ください。

■ <http://www.jaeic.or.jp/kenchikucpd.htm>

この研修会は、以下のCPD制度の共通認定プログラムです。

- 建築CPD情報提供制度 ● JIA CPD制度 ● 建築士会CPD制度
 - 建築設備士関係団体CPD制度 ● APECアーキテクト ● APECエンジニア
- 2日コースを修了すると14時間の単位を取得できます。CPDS取得時間は7時間ずつのプログラムとなっていますが、2日連続の受講をお願い致します。認定項目については、下記Webページでご確認ください。

■ https://jaeic-cpd.jp/cpd_prgrdt.php?PGID=00069372

■ https://jaeic-cpd.jp/cpd_prgrdt.php?PGID=00069373

◎BL-QE 内部監査員研修会 開催サービス

一般財団法人 ベターリビング システム審査登録センターで開発した、内部監査員の養成、内部監査員の力量アップのためのセミナーをご要望に応じて開催いたします。参加人数が多い場合は、経済的に内部監査員の研修を実施する事も可能です。詳しくは、下記担当までお問い合わせください。

◎詳しくは、同封の申込書をご覧ください。

◎お申し込み方法: 同封の申込書に必要事項を明記のうえ、ファックスでご送付ください。

認証取得の広報に BL登録ステッカー をご活用ください。

【BL-QE登録ステッカー 仕様】

透明塩ビ/耐光印刷/UVグロスラミネート

サイズ(mm)	(大)420×74 / (小)210×37
種類	ISO9001 / ISO14001 / ISO/IEC27001
価格 (税/送料含む)	(大) 500円/1枚 (小) 300円/1枚 (大&小 セット) 600円/1組

BL登録ステッカーの 使用方法について

- 基本的に、登録組織名称と共に使用してください。

詳しくは、下記担当までお問い合わせください。

■大&小セット
420×74mm

210×37mm



ISO9001 認証取得



ISO9001 認証取得



ISO14001 認証取得



ISO14001 認証取得



ISO/IEC27001 認証取得



ISO/IEC27001 認証取得

◎お問い合わせ先: 企画管理部企画課 担当: 半田/山賀まで (TEL: 03-5211-0603 E-mail: blqe-isonews@cbl.or.jp)

本誌は、弊センター登録組織から受領した「品質/環境マネジメントシステム審査登録申請書」「情報セキュリティマネジメントシステム審査登録申請書」「労働安全衛生マネジメントシステム審査登録申請書」に記載されている「申請者」宛に、発行の都度送付しております。送付業務は、効率的に一日も早くお届けできるように、弊センターから「宛名ラベル」を提供し発送を委託しております。弊センターは、発送委託業者との間における請書において、再委託業務も含めた機密保持義務を課す項目を定め管理を徹底するように努めております。今後ともこのような対応をいたします。

ISO NET (Center for Better Living) Vol.97 2013年10月18日発行
発行 一般財団法人 ベターリビング システム審査登録センター
代表者: センター長 有馬 正子
担当: 企画管理部
TEL: 03-5211-0603 FAX: 03-5211-0594
ホームページ: <http://www.cbl.or.jp/>

